

# 児童、生徒の学習状況結果まとまる

# 国語、算数(数学)で高い平均正答率

町内の児童、生徒は、中学「数学B」教科を除いた国語、算数(数学)の教科で全国、全道に比べて平均正答率が高いことが分かりました。「いじめはよくない」「人の役に立つ人間になりたい」と考える割合も大きいことが分かりました。

今年4月に実施した文部科学省の「全国学力・学習状況調査」によると、町内4小学校の6年生(4校76人)、中学3年生(1校73人)を対象とした国語、算数(数学)平均正答率は、小学生全国、全道平均に比べて上回り、中学生でもわずかながら上回る結果になりました。

児童の国語教科ではA(主として知識)、B(主として活用)分野ともに伸びが高くなりましたが、半面中学生の「数学B」は全国、全道に比べて正答率が低い結果になりました。

児童、生徒への質問では、「人が困っている時に助ける」「いじめはどんなことがあってもいじめない」「人の役に立つ人間になりたい」「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め、調べたことを発表する」「先生から示される

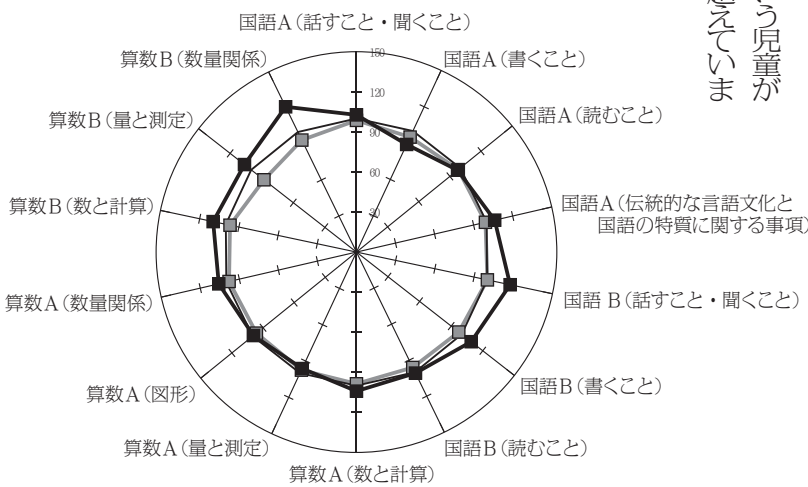
課題や学級、グループの中で自分たちが建てた課題に対して、自ら考え自分から取り組んでいる」など自己肯定的な評価が高い結果となりました。

また「読書が好き」という児童が10割以上も高く、6割を超えています。

## 【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)

### 東川町内小学校の状況



### 東川町内中学校の状況

